

2017.2.7 08:46

【明美ちゃん基金ミャンマー医療団】医療団、ミャンマーで治療開始 「重症の患者が待っている」内科外科の連携で治療

【ヤンゴン=小林佳恵】国内外の心臓病の子供たちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）の医療団13人が6日、ミャンマー・ヤンゴンの国立ヤンキン子供病院で心臓病の子供たちの治療を開始した。医療団は内科チームが「外科手術が必要」と診断した患者を外科チームにつなぐなど連携して治療に当たった。

東京女子医大循環器小児科の中西敏雄特任教授（67）を中心とした内科チームは、カテーテルを使って心臓の血管の穴をふさぐ治療などを実施。現地医師を日本人医師が補助したり指導したりした。国立循環器病研究センターの市川肇・小児心臓外科部長（59）を中心とした外科チームは、現地医師や看護師と一緒に手術を行った。

市川部長は「術前の丁寧な診断が重要なことなどを粘り強く伝えていきたい」と課題を述べ、「これから重症な患者が待ち受けている」と気を引き締めた。



カテーテル治療を無事終えた女兒、ベイビー・カイちゃんに、母親がずっと寄り添っていた＝6日午前、ミャンマー・ヤンゴンの国立ヤンキン子供病院（福島範和撮影）